

第8章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

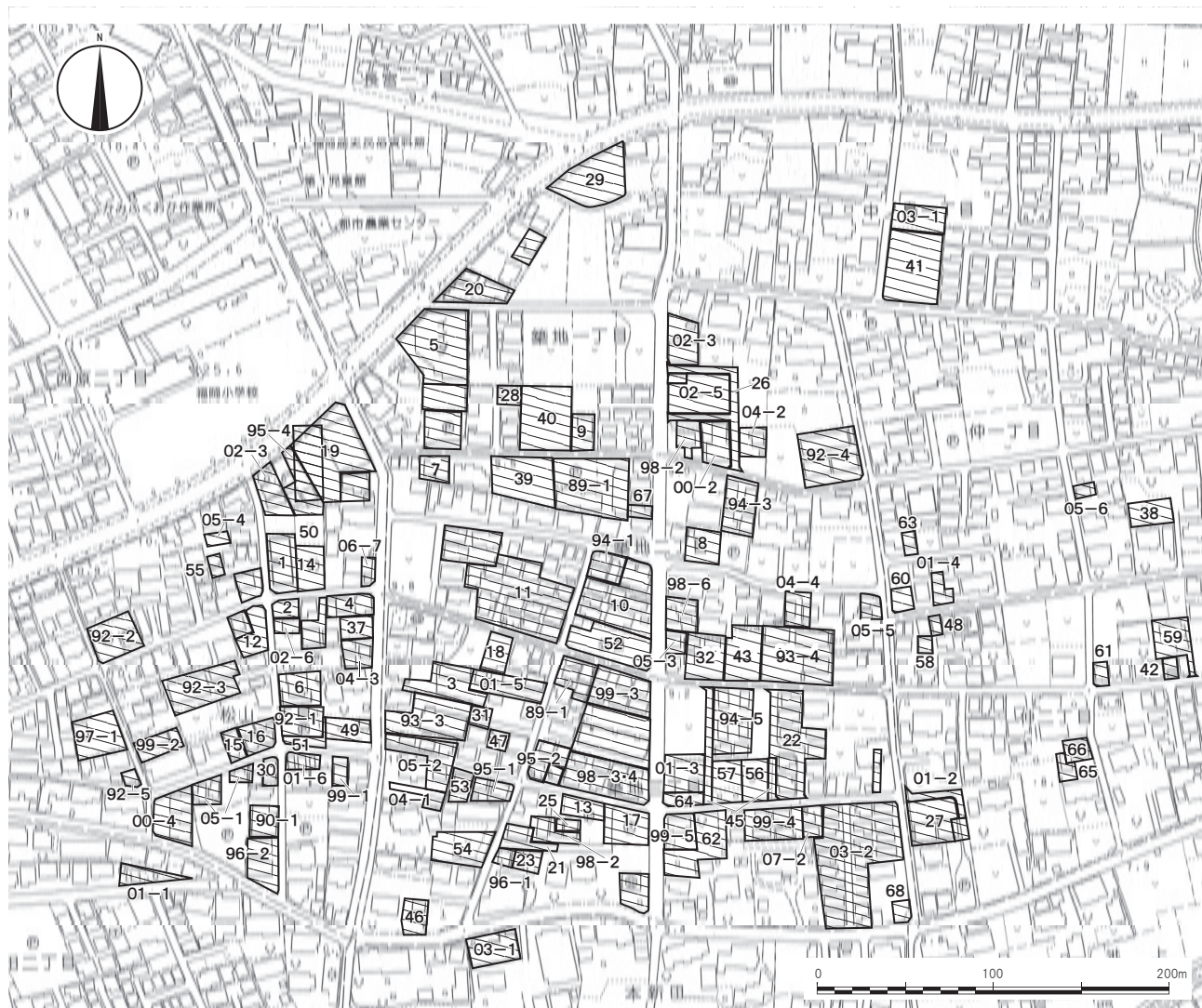
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、2007年、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第61地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年4月16日から19日まで、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、



第19図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第14表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05試(1)	松山2-2-40の一部	(2005.4.6~7)	313	土地分譲	なし	市内1
05試(2)	築地3-1-32,34,43	(2005.4.19~21)	549	土地分譲	なし	市内1
05試(3)	築地2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	なし	市内1
31次	築地3-1-69	2005.6.14~23(2005.6.9~13)	120	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
05試(8)	築地2-5-3	(2005.8.30~9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	市内1
32次	築地2-5-30の一部	2005.9.8~13(2005.8.30~9.7)	132	個人住宅	平安住居跡2	市内1
05試(5)	築地2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	なし	市内1
05試(4)	松山2-4-23	(2005.10.20~21)	161	個人住宅	なし	市内1
05試(6)	仲1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	なし	市内1
05試(7)	松山2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	なし	市内2
37	松山2-6-10,13	(2006.4.13)	228	個人住宅	なし	市内3
38	仲1-4-3,9,12,13,24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	なし	市内3
39	築地2-3-10	(2007.1.10~20)	937	宅地造成	なし	市内3
40	築地1-1-5	(2007.2.2~8)(2007.2.21~3.9)	1,047	宅地造成	奈良住居跡1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島1-2-5	(2007.2.7~9)(2007.2.21~3.5)	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	なし	市内3
43	築地2-5-2	(2007.4.11~24)	668	分譲住宅	堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点	市内4
44	築地3-2-10,2-14	(2008.6.9~11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地3-4-7の一部外	2008.10.1~23(2008.9.4~30)	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代堅穴住居跡2、掘立柱建物跡2、堅穴状遺構1、時期不明の溝10、土坑、ビット	市内6
46	築地3-1-33の一部,1-35の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地3-1-52	(2009.5.11,12)	121	個人住宅	ビット	市内8
48	仲2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山2-6-1,14,22の一部	(2009.10.17~22)(2009.10.27~11.18)	449	宅地造成	平安時代堅穴住居跡1(住居内鍛冶炉検出)、土坑1、溝1、ビット1	市内8
50	松山2-5-3,17	(2009.11.27~12.1)	797	分譲住宅	溝1、ビット7	市内8
51	松山2-6-22,23,28の一部	(2010.5.10~13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝1、落とし穴1、工事立会	市内10
53	築地3-1-11	(2010.9.10~21)	205	個人住宅	近代以降の溝3、アナグラ1、慎重工事	市内10
54	築地3-1-6,76~83	(2010.9.21~10.1)2010.10.4~11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡3確認、西側の住居は盛土保存、他2は本調査	市内9
55	松山2-4-24の一部	(2011.1.17)1.18~1.31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡1、掘立柱建物跡1、本調査	市内10
56	築地3-4-7-4-8の一部	(2011.4.4~14)4.11~15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡2他、本調査(一部工事立会)	市内11
57	築地3-4-47	(2001.1.4~15)	241	分譲住宅	隣接する45地点から跡H34号住居跡と溝、遺物なし	市内14
58	仲2-2-31	(2011.6.6~8)6.14	115	個人住宅	井戸1、溝1、ビット1、本調査	市内14
59	仲2-3-6、3-9	(2011.8.8~9)8.10~11	560	個人住宅	土坑2、溝3、縄文土器、須恵器、本調査	市内14
60	仲1-1-15	(2012.3.26~27)	165	個人住宅	堀跡1、溝1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内14
61	仲2-3-3	(2012.4.16~19)	113	個人住宅	溝1、土坑3、陶磁器	市内15
62	築地3-5-11,14,19	(2012.6.11~21)7.23~8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡1、奈良平安時代住居跡1、溝6、縄文土器、銭貨、他	市内12
63	仲1-1-55,56,57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
64	築地3-4-9	(2012.6.7~15)	314	分譲住宅	溝4、近世の土坑、陶磁器	市内15
65	仲2-1-25,36	(2013.2.13~18)2.19~3.21	630	物置	奈良平安住居跡2、掘立柱建物跡3、土坑6、溝6、須恵器、旧石器	市内15
66	仲2-1-53,54		179	個人住宅		市内15
67	築地3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
68	築地3-5-1	(2013.3.7~8)	166	個人住宅	井戸1、土坑1、ビット4、須恵器、土師器等	市内15
69	仲1-51,53,55	(2013.9.10~11)9.12~17	298	道路築造	縄文時代集石土坑1、溝1	未報告
70	仲2-2-39,41	(2013.4.11~16)4.17~23	220	道路	奈良平安住居跡1、中世以降井戸1、集石土坑1、溝2	未報告
71	築地3-1-16,32,34	(2013.4.30~5.1)	240	分譲住宅	遺構なし、陶器片1	未報告
72	松山1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
73	築地3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡1、須恵器	未報告
74	仲2-1-37	(2013.12.24~26)	280	分譲住宅	井戸1、集石土坑1、溝2、土坑1、陶磁器	未報告
75	仲2-2-2	(2014.1.14~20)8.5~11	606	分譲住宅	平安住居跡1、溝3、須恵器、土師器	未報告
76	仲2-2-48	(2014.1.22~28)9.26~10.2	120	個人住宅	井戸1、溝1、土器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22~28)11.12~17	120	個人住宅	古代住居跡1、土師器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22~28)	362	造成工事	平安時代住居跡1、井戸2、溝2、土坑3、土師器、須恵器、中世陶器	未報告
77	松山2-6-2,3,12の各一部	(2014.3.3~12)3.13~27	493	個人住宅	平安時代住居跡1、ビット2、井戸1、土師器、須恵器	未報告
78	松山2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田395-5の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田411の一部	(2015.7.30~31)	194	個人住宅	溝1、遺物なし	未報告
83	仲1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝1、遺物なし	未報告
84	築地3-4-13	(2015.9.15~16)	455	宅地造成	平安時代住居跡1、井戸1	未報告

第15表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形状	規模	炉	設置壁	カマド	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマドK		規模 cm					
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390×380	K	東	110×75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	"	第1次2号住居	完掘	台形	360×320	K	東	120×85	○		国分前半		"
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350× 10	K	東			一部	国分後半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
4	"	第3次4号住居	完掘	方形	530×475	K	北	200×100	○	N-14-E	国分後半		"
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230×350	K	北→東		○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査14
6	"	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	東		○		9C 2半期		"
7	"	第11次7号住居	完掘	正方形	400×400				○		8C 4半期		"
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×				○	N-10-E	8C 3半期		埋蔵文化財の調査15
9	1993	第15次9号住居	完掘		A440×350、B420×310、C260×300	K	東→北	A210×210、B210×210、C80×65	○		9C 1半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査16
10	"	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	130×80	○		8C 4半期		"
11	"	第17次11号住居	完掘	方形	600×600	K	北		○	最大住居	7C 4半期	黒色土師器出土	"
12	"	第18次12号住居	完掘	方形	400×320	K	北		(○)		8C 4半期		"と市史
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450×300	K	北		○	N-5-E	9C 1半期		松山遺跡第19次調査概要
14	"	第19次14号住居	完掘	長方形	450×500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1半期	土鍾出土	"
15	"	第20次15号住居	完掘	長方形	370×470	K	北西	70×70	○		7C 4半期		松山遺跡第20次の調査
16	1995	7年試掘(2)16号住居								N-20-W	6C		未報告
17	"	第21次17号住居	完掘	長方形	480×400	K	北		○		7C 4半期		埋蔵文化財の調査19
18	1997	第22次18号住居	完掘	長方形	240×460	K	東	90×60	○	N-50-E	8C末		埋蔵文化財の調査20
	"	第22次1号掘立	部分	長方形	東西5間 南北3間						8C末~9C初		"
	"	第22次2号掘立	部分	長方形	東西2間 南北2間						8C末~9C初		"
	"	第22次3号掘立	部分	長方形	(東西2間) 南北3間						8C末~9C初		"
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290				○	N-30-W	8C後半	土鍾6点出土	埋蔵文化財の調査21
20	1999	第25次20号住居									8C初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	"	第25次21号住居									8C初頭		未報告
22	2000	第26次22号住居	完掘		360×	K	北		○		7C後半	14年度完掘、焼失住居	埋蔵文化財の調査23
23	"	第27次23号住居	完掘	台形	600×720	K	北		○		8C半ば		"
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西		○		8C中葉		埋蔵文化財の調査24
25	2000	12年度試掘5	2/3										埋蔵文化財の調査23
26	2002	第29次26号住居	完掘	長方形	420×360	K	北		○		7C後半		埋蔵文化財の調査25
27	2003	15年度試掘27号住居	一部		(盛土保存)								埋蔵文化財の調査26
28	"	15年度試掘28号住居	1/2		(盛土保存)								"
29	"	第30次29号住居	完掘	長方形	360×420	K	東		○		9C前半		"
30	2005	第31次30号住居	完掘	長方形	360×600	K	北		○			土鍾出土	市内遺跡群1
31	"	第32次31号住居	完掘	長方形	380×330×	K	東		○	S-65-E	9C中葉		"
32	"	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東		○	S-85-E			"
33	2006	40地点H34号住居	完掘	方形	455×420	K	東	98×154	○	N-5-E	8C後半		市内遺跡群3
34	2008	45地点H34号住居	完掘	方形	364×361	K	北	122×125	○	N-96-E			市内遺跡群6
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	504×(222)	K			○			焼失住居	市内遺跡群6
36	2009	49地点H36号住居	完掘	方形	280×290	K	東	105×100	○	N-92-E	8C後半	鍛冶炉1	市内遺跡群7
37	2010	54地点H37号住居	完掘	方形	434×524	K	北	70×86	○	N-13-E	8C1四半期		市内遺跡群9
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440)×468	K	東	95	○	N-107-E	8C1四半期	プラン確認	市内遺跡群9
39	2010	54地点H39号住居	完掘	方形	336×459	K	北	79×101	○	N-4-E	8C1四半期		市内遺跡群9
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300)×(320)	K	東	95×123	○	N-90-E	9C前半		市内遺跡群10
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北		○	N-18-E			市内遺跡群12
42	2013	65-66地点H42号住居		方形	460×440	K	東	110×106	○	N-62-E			市内遺跡群15
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	—	—	—	—	N-66-E			市内遺跡群15
2013		66地点H43B号住居		方形	700×700	K	東		—	N-66-E			市内遺跡群15



第20図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、近世の土坑3基と溝1条を確認した。

地表面から遺構確認面までの深さは約80～100cmであるが、30cmの保護層が確保できるため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【溝】調査区北側に位置し、東西方向に延びる。断面は上幅が広く、底部が狭い薬研状を呈する。上幅315

cm、下幅30cm、深さ97cmを測る。近世以降の根切り溝と思われる。

【土坑】3基検出した。浅い土坑で、土層観察からは中近世以降。トレンチ部分のみの調査で、東西方向の規模は不明。詳細は第16表のとおりである。

【出土遺物】詳細は、第17表のとおりである。

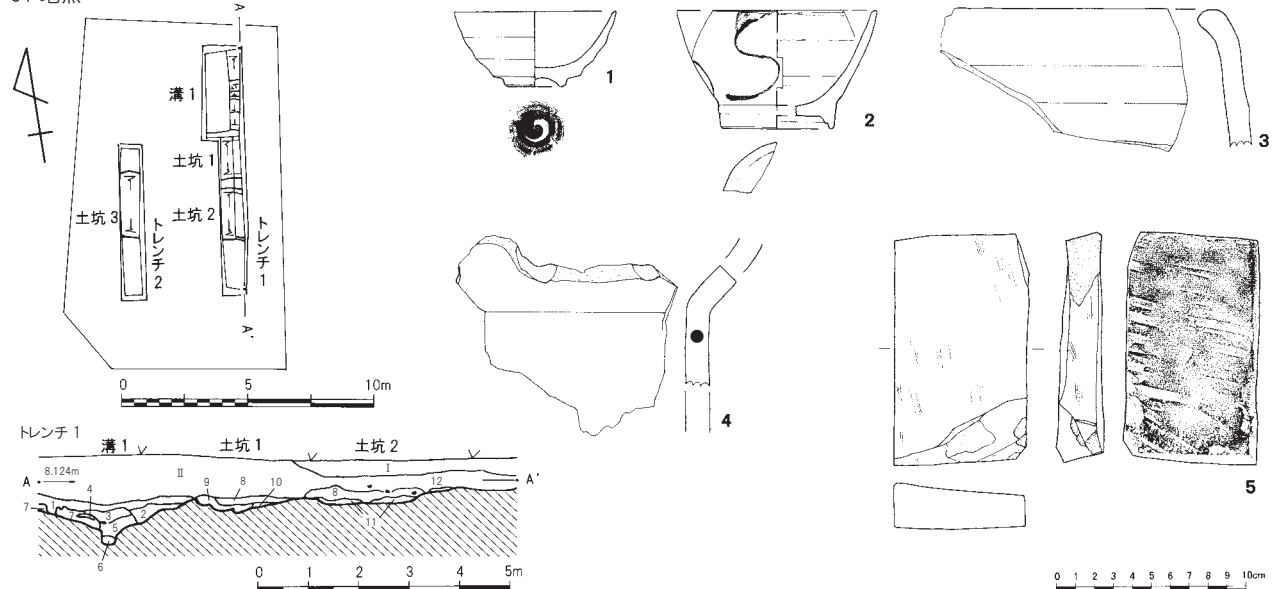
第16表 松山遺跡第61地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	160×(50)	—	88.0	全測図より
土坑2	不明	205×(50)	—	85.0	全測図より
土坑3	不明	260×(80)	—	101.3	全測図より

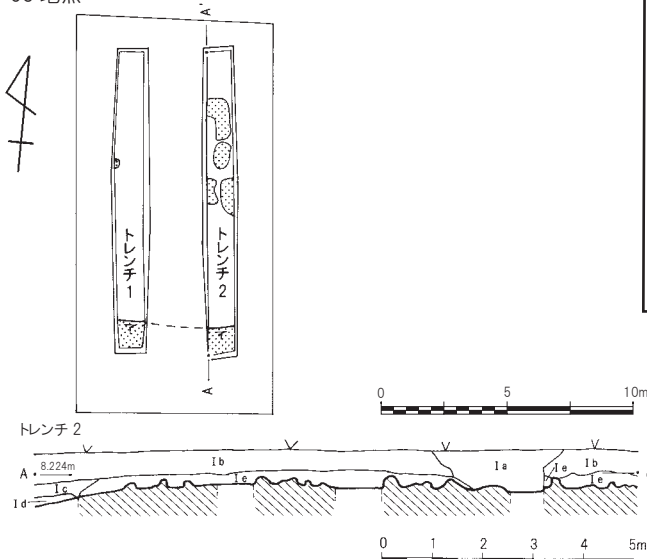
第17表 松山遺跡第61地点出土遺物観察表 (単位 cm)

掲載No.	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	溝1	磁器/小坏	8.5	3.2	4.0	轆轤成形/クロム青磁	瀬戸・美濃	1880年代以降
2	トレンチ1東壁No.2	陶器/碗	(10.5)	(6.0)	6.2	轆轤成形/陶胎染付/捺文/「太白手広東碗」	瀬戸・美濃	1800～1860年代
3	土坑2	土器/火消壺	—	—	—	紐積成形/口縁の一部に煤付着	在地	近世
4	溝1	土器/土管	(10.5)	(11.7)	(1.2)	紐積成形/広く開く部分に3ヶ所穿孔有り、胎土に金雲母	—	近現代
5	遺構外	石製品/砥石	(12.0)	7.0	2.2	裏面平タガネ痕/重さ323.34g/火成岩	上州	近世

61 地点



63 地点



- I. 表土、埋土 硬く締る、ローム粒多く含む
 II. 表土 暗褐色土 締りやや有、～5mmローム粒少し、～1cm大炭極少し含む
 1. 暗褐色土 締りやや有、～1cmローム粒やや多く含む
 2. 暗褐色土 締りやや有、～5cm大ロームブロック多く、～5mmローム粒極多く含む
 3. 暗褐色土 締り有、～2mmローム粒少量
 4. 暗褐色土 締り有、硬い
 5. 暗褐色土 締り有、～5mmローム粒やや多く、～5mm炭少し含む
 6. 暗褐色土 締り無、～5cmロームブロック多く含む
 7. 褐色土 締り有、～5mmローム粒多く含む
 8. 暗褐色土 締り有、硬い、1mmローム粒多く含む
 9. 黒褐色土 硬く締る、1mmローム粒、～2mm炭多く
 10. 褐色土 締り有、～1cmローム粒と褐色土の混合
 11. 褐色土 締り有、～5mmローム粒極多く
 12. 褐色土 締り有、ソフトローム主体、暗褐色土混入

- I a. 黒褐色土 締り有、粘性有、中位に30cm厚のローム土を挟む
 I b. 暗褐色土 締り有、粘性有、近年の耕作土・盛土、2cm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒・5mm以下炭化物少し含む、コバルト染付磁器伴う
 I c. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む、溝状、今回は攪乱扱い
 I d. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む、溝状、今回は攪乱扱い
 I e. 黒褐色土 締り有、粘性有、旧耕作土、ソフト質のロームブロック・粒をやや多く含む

第21図 松山遺跡第61地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、出土遺物(1/4)、第63地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

Ⅲ 松山遺跡第63地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年5月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年6月5日、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかったので慎重工事の措置とした。

地表面から遺構確認面までの深さは約60～75cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅳ 松山遺跡第64地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2012年5月31日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央南部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年6月7日から15日まで、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で遺構覆土を検出したため、遺構の範囲や形態を確認するために試掘範囲を拡大し、確認調査を行った。その結果、古代から中世の大型の溝1条と中世以降の溝3条と近代の土坑1基を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

その後、宅地予定地について個人住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」が原因者より2012年8月8日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。地表面から遺構確認面までの深さは約50cmであるが、20cmの盛土を行うので、30cmの保護層が確保できるため工事立会の措置とした。

(2) 遺構と遺物

【溝1】4条検出した。

溝1は調査区東側で南北方向に延びる。松山遺跡の各地点(1999年試掘-5、2001年試掘-3、2004年試掘-5、43地点、45地点、62地点)で延長部分

を確認しており、南北150mに渡る直線状の溝である。今までの調査では、時期は出土遺物から古代と思われる。溝4に切られており、4条検出した溝の中で一番古い。断面は急峻なV字形を呈する。

溝2は調査区中央で南北方向に延びる。溝4の埋没後に構築され、溝4より新しい。断面方形を呈する。

溝3も調査区中央で南北方向に延びる。溝4の埋没後に構築され、溝4より新しい。断面半円状を呈する。近代の土坑1を切って構築されており、時期は近代以降。

溝4は調査区中央に位置し、東方向に9.8m、中央部で南側に屈曲し、6.8m延びる。道路を挟んだ62地点では14.5m南進したのち西へ曲がり、合わせて南北25m、東西10mの「コ」字形が確認できる。断面は逆台形を呈し、西側の溝の立ち上りも垂直に近い。時期は中近世。規模は、第18表参照。

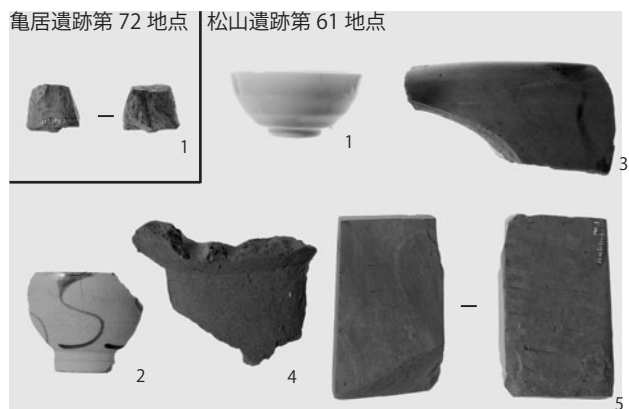
【土坑1】土坑1は近代のごみ穴。



松山遺跡第 61 地点全景



松山遺跡第 61 地点溝



亀居遺跡第 72 地点、松山遺跡第 61 地点出土遺物



松山遺跡第 63 地点調査風景



松山遺跡第 63 地点トレンチ 1



松山遺跡第 64 地点全景